

道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※以下の指導方法は、本専門委員会に於ける事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態、児童生徒の姿態を踏まえ、授業の主題やねらいにに応じた適切な指導方法を選択することが重要。
 ※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

ねらい	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
<p>×</p>	<p>教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。</p> <p>学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。</p>	<p>問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きていく上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。</p> <p>問題の発見や道徳的価値の想起など ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本来的な意味や意義への問いをもち（原理・根拠・適用への問い）。</p>	<p>×</p> <p>役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。</p>
<p>登場人物の心情理解のみの指導</p>	<p>登場人物への自我関与 ・教材を通して、登場人物の判断や心情を自分との関わりで考える。 ・自分自身の道徳的価値を自分との関わりで考える。 【教師の主な発問例】○○○という行動を取ることができたの、どう思いますか？（又はできなかったの、どう思いますか？） ・主人公は、どう思うと思いますか？ ・自分だったら主人公のように考え、行動することができたらどうだろうか。</p>	<p>問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ・道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となったのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話し合いなどを通して道徳的価値について道徳的な問題状況に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 【教師の主な発問例】 ・この中で何が問題になっていますか？ ・どうして迷っていますか？ ・なぜ、迷っているのか？（道徳的諸価値）は実現できるのでしょうか？ ・どうすれば、迷っている自分ならどう行動しよう？ ・同じ場面に出たら自分ならどう行動しよう？ ・なぜ、迷っている自分ならどう行動しよう？ ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょうか？</p>	<p>道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ・教材の中含まれる道徳的諸価値に関する問題場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。 道徳的な問題場面の把握や考察など ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の発問例など ・「役割演技」や「グループワーク」など、実際の問題場面を役割り演じることで、登場人物の感情や道徳的価値を体験し、その行為の意義や価値を深く理解する。 道徳的価値の意味の考察など ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するための大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体験することを通して、日常生活における問題の解決に共通した価値をもたせる。</p>
<p>導入</p>	<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>
<p>展開</p>	<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>
<p>終末</p>	<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>

※この授業は、本専門委員会に於ける事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態、児童生徒の姿態を踏まえ、授業の主題やねらいにに応じた適切な指導方法を選択することが重要。
 ※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

指導方法の効果	×	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
	登場人物の心情理解のみの指導	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが読み物教材の登場人物に話して自らの考えや気持ち等を素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> 出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。 他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。 問題の解決を求めめる探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。 	<ul style="list-style-type: none"> 心情と行為とをすり合わせることで、無意識の行為を意識化する事ができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。 体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。 	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
指導上の留意点		<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。 教師に明確な主題設定がなく、指導頼に基づき発展でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確なテーマ設定のもと、 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 議論し、探求するプロセスが重視されているか。 といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> 明確なテーマのもと 心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。 	
評価		<ul style="list-style-type: none"> 個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 <ul style="list-style-type: none"> ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。 学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。 妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。 		